

牧草と園藝



ソルガム

モウソウソルゴー

1. 交配及び草姿

ソルゴー×ソルゴーの一代雑種で、初期生育が旺盛で草姿（型態）は雪印ハイブリッドソルゴーに類似するが、草丈伸長が著しく、茎はやや太い。

2. 早晩性

交配片親が熱帯ソルゴーで千葉市における5月10日播きの出穂期は8月下旬～9月上旬と極晩生。

3. 刈り取り回数

ハイブリッドソルゴーと同様に多回刈りには適さず、2回刈りが最適で、主としてサイレージ利用に好適。

4. 耐病性

温暖地～西南暖地で、梅雨あけから発生し、盛夏時に最発する紫斑点病（Target Spot）に極めて強い抵抗性を有し、ひょう紋病、条斑細菌

菌病にも耐病性を有しています。

5. 耐倒伏性

品種名にしめすとおり、「モウソウダケ」の如く、台風にあたっても倒れたり、折れたりすることのない最強の耐倒伏性を添えています。

6. 飼料成分

ブリックス糖度計による茎糖度は10%を越え、乳酸発酵を左右する糖分割合が高く、更に同一生育ステージの他品種との比較で含水率が低く、サイレージ材料としての優れた適性を添えています。

7. 収量性

ソルガム品種中抜群の高収性を示し、2回刈りで生草で15t、風乾物で3～4tの高収が期待できます。モウソウソルゴーは粗飼料不足条件下で最高の生産性が発揮される優良多収品種です。

右、草丈伸長の著しいモウソウソルゴー

左、雪印ハイブリッドソルゴー

両品種とも1番刈りの適期をむかえている。



モウソウソルゴー栽培・利用のポイント

質問1 1番草の刈り取り適期はいつでしょうか？

出穂～開花期（9月上～中旬）の刈り取りでは、多くの再生収量を望むことができません。従って生育ステージで判断すると止葉期（8月上～中旬）が最適で、高温時における旺盛な再生力・耐病性などが二番草で充分発揮され、合計収量での高収が期待できます。

質問2 太茎は消化率・嗜好性に影響しませんか？

茎の太さと消化率の間には、太茎きほど消化率が高いとの研究報告がなされています。太茎きと表現すると若干問題がありますが、たとえば同一品種を密植（細茎きと）した場合と疎植（太茎きと）した場合とを比較すると、疎植（太茎き）のほうが消化率が高いことが知られています。太茎きは材料全体に占める表皮部分の割合が低く、それが消化率向上に役立っている

と判断されます。

嗜好性は通常青刈り給与で問題となりますが、細切して給与した場合は高糖分とも関連し、乳牛の嗜好性も良好です。

質問3 耐湿性はどのようにでしょうか？

千葉研究農場で実施した転換畑を利用した耐湿性検定の結果では、モウソウソルゴーが極強と判定され、収量性を加味するとなおさら、利用性の高い品種と判定されました。

モウソウソルゴーの栽培しやすい特性の一つに除草剤抵抗性があげられ、ゲザプリム100～150gの使用では、ほとんど薬害が認められず、通常ソルガム栽培のネックとなっている除草剤利用も大きな問題とはなりません。